

## SDGs達成に向けた取組みチェックリスト

更新

事業者名: 株式会社星山商店

・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具体的な取組みを記載してください。  
 ・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。  
 ・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的な取組みを記載のうえ、提出してください。

(様式第2号)

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																					
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17					
組織・公正な取引	1	【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内で共有、実践している。	●		・定めた環境方針に則り、全社員で地球保護に貢献できるよう、事業に取り組んでいる。									8	9										17		
	2	【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している。	●		・社員と外部コンサルタント等により、リーガルリスクマネジメント体制を構築している。 ・各事業に関する勉強会を定期的に行い、法令等に関する知識を習得する機会を設けている。																				16		
	3	【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している。	●		・「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」を遵守し、公正な取引を行っている。法律が改正された際には関係社員に周知している。												10									16	
	4	【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当や専門部署などの体制を整備している。	●		・環境マネジメントシステムISO14001の認証を取得しており、各事業から担当者を選任し環境委員会を設置している。																					16	
	5	【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる。	●		・特許や著作権などの保護について就業規則において明文化して定めている。											8.2	9									16	
	6	【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している。	●		・個人情報保護方針を定めており、情報を管理している金庫、サーバー室には特定の社員しか入室できない仕組みを導入している。																					16	
	7	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー(※)との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している。(※利害関係者:消費者、投資家等及び社会全体)	●		・従業員や行政、銀行、取引企業、地域等の多様なステークホルダーとの相互信頼を確かなものとするため、積極的な情報開示を行いコミュニケーションを図っている。																				16	17	
	8	【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応(ハラスメント・汚職・贈賄防止)について認識を共有し、共に取り組んでいる。	●		・サプライヤーで組織された協会の、安全大会等で、行動倫理規範への認識を共有し、全社員へフィードバックしている。					5					8		10		12	13	14	15	16	17	17		
	9	【災害や事故への備え】 ・地震や水害などの自然災害や事故などに備え事業継続計画(BCP)を策定し、訓練や見直しを行っている。	●		・災害への備えとして事業継続強化計画の認定を受け、災害・危機管理マニュアルを作成している。												9		11		13.1					16	17
	10	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている	●		・税理士や銀行、外部コンサルタントと、多角的な視点から検討し対策を講じている。											8	9									17	
	11	【公正な貿易】 ・フェアトレード商品の調達に取り組んでいる。	●			1	2			5					8					12	13	14	15	16	17	17	
労働・人権	12	【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出自などによる差別や各種ハラスメントを防ぐ体制が整備され、社内でも差別や人権侵害がないことを確認している。	●		・女性の活躍を推進するとともに、ハラスメントに対する相談窓口を設けている。				4.3	5.1				8.5			10.2							16.1		16.2	16.7
	13	【労働安全衛生】 ・業務中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる。	●		・毎週月曜日に工場内の安全パトロールを実施している。 ・労働安全衛生委員会を設置し事故防止対策に取り組んでいる。			3						8.8													
	14	【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している。	●		・正社員と非正規雇用労働者との間で、待遇差が生じないように、熊本労働局雇用環境・均等室の指導の下、同一労働同一賃金のガイドラインに沿って対応をしている。					5.5				8.5			10.2	10.3									
	15	【ワークライフバランス】 ・働き方の見直し等により、過度な長時間労働を防止し、家庭と仕事の両立を図るためのワークライフバランスを推進している。	●		・育児と仕事の両立の為に、家庭の事情に合わせた勤務体系にするなど、働きやすい職場環境づくりを推進している。			3		5.5				8.5	8.8		10.3										
	16	【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している。	●		・社会保険労務士による管理職を対象とした人事考課に関する講習を実施している。 ・必要資格の取得における費用の全額を会社が負担する制度を設けている。				4	5.5				8	9												
	17	【健康経営】 ・従業員が心身ともに健康を維持できるよう対策を講じ、生産性の向上等に取り組んでいる。	●		・産業医の職場巡視により、職場に潜む危険や健康問題の解決に取り組んでいる。 ・夏の暑さ対策として、製氷機やミスト機を設置している。休憩時間以外にも小まめな休憩を心がけ、集中力を保ち事故防止に取り組んでいる。			3						8												17	
	18	【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材(女性、外国人、障がい者、高齢者等)が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる。	●		・外国人や障がい者、高齢者が活躍できるよう、環境を整備しダイバーシティを推進している。 ・障がい者の職場体験の受入を行っている。				4.4	5.1	5.5			8.5			10.2	10.3							16.7		
	19	【新しい生活様式への対応】 ・新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策としても有効なテレワークや時差出勤、ウェビ会議等を導入している。	●		・感染の恐れがある社員でも安心して業務に従事できるよう、リモートワークを導入している。 ・諸事情によりリモートワーク等が難しい場合、本人が希望した場合のみ、社内の隔離スペースを利用できるよう配慮している。			3						8	9.1		11	12									
	20	【デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進】 ・ICTやAIを活用したデジタル化やオンライン化等のDXの推進により業務の効率化やビジネスモデルの変革に取り組んでいる。	●												8	9.1		11	12								
	21	【プライト企業】 ・プライト企業に認定されている。	●		・令和5年度に認定を受けている。			3	4					8	9			12									

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																					
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17					
環境	22	【環境汚染予防】 ・廃棄物や有害化学物質の適切な管理、及び処理に取り組んでいる。	●		・工場内の雨水等を外部へ流出しないよう、側溝等を設け油水分離処理を行い調整池へ排水している。調整池に有害物質が滞留していないか定期的に水質検査を行っている。			3.9			6.3					11.6	12.4		14.1	15.1							
	23	【エネルギー】 ・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。	●		・使用燃料や電気などのエネルギー使用量を把握し、生産量に対してのエネルギー使用量削減の指標を設定している。							7.3							13								
	24	【温暖化対策】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。	●		・事業活動のCO2排出量算定のシステムを導入。CO2排出量削減の目標を設定し進捗管理を行っている。			2.4				7.2 7.3 7.a					12.4	13	14	15							
	25	【生物多様性】 ・自社活動が環境(生物多様性や生態系等)に悪影響を及ぼさないように配慮している。	●		・各工場にて環境アセスメントを実施している。						6.6									14	15						
	26	【効率的な資源利用】 ・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)に取り組んでいる。	●		・自社事業の廃棄物及び他社事業の廃棄物と、どちらにおいても適切な処理を行い可能な限り、マテリアルリサイクル及びサーマルリサイクルに取り組んでいる。										9.4			12.2 12.4 12.5		14.1	15						
	27	【水の管理】 ・熊本の水資源の質と量の保全に取り組んでいる。	●		・防塵対策に使用する水は井水や上水だけでなく、調整池の水を活用している。			2.4				6.1 6.3 6.4 6.6 6.b					11.5			14.1 14.2 14.3	15				17		
	28	【環境に配慮した製品等】 ・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる(グリーン購入、リサイクル製品認証等)。	●		・がれき等を40mmアンダーまで破碎し再生クラッシュランとして販売している。 ・廃自動車から使用可能な部品を取外し、点検や清掃を行いリサイクルパーツとして販売している。										9.4			12.4 12.5	13	14	15						
	29	【食品ロスの削減】 食品ロスの削減に取り組んでいる。	●					1	2			6.4							12.3		14	15				17	
	30	【緑の保全管理】 ・壁面緑化や植栽など緑の創出と保全、管理に取り組んでいる。	●		・敷地の法面などに防草と緑化の両面の性質をもつ「クラピア」を採用し、グリーンカーベットの形成に取り組んでいる。												11.6 11.7			13.1 13.3		15				17	
	31	【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】 ・高効率機器の導入等によるエネルギー使用率の改善または再生可能エネルギーの利用や供給に取り組んでいる。	●		・機械や重機は、ハイブリッド式など省エネ製品へ順次更新を行い、エネルギーの使用率の改善を図っている。 ・各工場の屋根などに太陽光発電装置を推進し、自家消費している。								7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.5		13.1 13.3								
	32	【森林資源の循環利用に向けた取組み】 ・“伐って、使って、植えて、育てる”の持続的な森林利用への取組みを推進している。	●								6					9.4		11.3 11.4 11.5	12.2	13		15					
	33	【植林等の取組み】 ・植林等の森林整備活動に取り組んでいる。	●									6.1 6.3 6.6						11.3 11.4 11.5	12.2	13		15					
	34	【海洋ごみ】 ・環境中で分解しにくいプラスチックの使用削減等、海洋ごみ、海洋汚染の防止削減に貢献している。	●																12.2 12.5		14						
	35	【環境に配慮した交通手段】 ・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境にやさしい自動車の使用を促進している。	●			・購入する社用車についてはEV車やハイブリッド車を導入している。										9.4		11.2		13.1 13.3							
	36	【2050年CO2排出量実質ゼロへの取組み】 ・2050年CO2排出実質ゼロを目指し、計画的にCO2削減に取り組んでいる。	●										7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.6 11.a	12.8	13							17.2	

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																					
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17					
製品・サービス	37	【製品・サービスの安全性と品質】 ・製品・サービスの安全性や品質を確保する仕組みを構築している。	●		・サプライヤーや取引企業からの要望を事業部間で情報共有し、安全を第一として、法令を遵守し品質やサービスの維持向上に取り組んでいる。			3.9							9			12.4									
	38	【ユニバーサルデザイン】 ・障がい者、高齢者に特定せず、誰もが利用しやすいサービス提供や環境整備を行っている。	●		・手すりの設置やバリアフリー化、外部トイレの整備など、環境整備に取り組んでいる。										9.1	10	11.7									17	
	39	【地域資源】 ・地産地消を推進し、熊本県産の原材料を優先的に使用している。		●				2.3 2.4					7.3	8	9		11.a	12.3	13	14	15					17	
	40	【木質化の取組み】 ・自社の執務室等の天井や床、壁等の内装や外壁等に木材を使用し、木質化を推進している。		●								7						12.2	13.1		15						
	41	【社会課題解決】 ・社会課題を解決するための製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる。		●	・工場のラインの見直しや、新たな技術を取り入れることにより、更なる再資源化の実現に向け協力企業と開発研究に取り組んでいる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17					
	42	【攻めの農林水産業】 ・地域における産学官連携等による新たな品種開発を促進するなど、地域レベルで農林水産業の生産能力向上に努めている。		●				2.3 2.4						8.2	9.2 9.4		11.a	12.2		14	15					17	
持続可能な社会・地方創生	43	【地域への参画】 ・自治活動や福祉活動、防災活動や寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。	●		・毎月一回は全従業員による近隣の清掃活動、毎朝昼は当番制で工場前の道路や歩道の清掃を行っている。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17					
	44	【防災、減災、レジリエンス(自助)】 ・過去の地震や水害などの災害を教訓に、事業への被害を防止・軽減するため、ハザードマップを確認し、避難行動計画や事前防災対策を進めている。	●		・災害・危機管理マニュアルを基に避難行動計画の確認や、応急資材の在庫確認を行っている。				4								11.5		13.1					16			
	45	【防災、減災、レジリエンス(共助)】 ・地域防災の担い手としての認識を持ち、防災士、水防団員、救助救急等の必要な技能を持つ社員を育成したり、地域消防団の活動に参加している。		●	・加入団体が自治体との災害廃棄物や防災に関する協定を締結しており、各団体を通じて災害支援活動を行っている。 ・社員が工場近隣や地元の地域消防団に参加している。	1.5		3	4							10.2	11.5		13.1					16	17		
	46	【防災関連商品の開発・販売】 ・防災関連商品の開発・販売を促進している。		●											9		11	12	13.1								
	47	【SDGsの普及啓発】 ・環境問題や人権問題をはじめとした社会課題の解決に向け、SDGsの普及啓発や教育機会の提供を行っている。		●		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17					
	48	【インターンシップ等の受入れ】 ・職場体験、インターンシップの受入れ、職場関連授業の実施など、地域の児童や学生に対し、職業の学びの場を提供している。		●	・小学校の社会科見学の実施や、中等学校・支援学校などで実施されている職場体験活動で生徒の受け入れを行っている。				4					8.6		10.2										17	
	49	【若者の地元定着等】 ・若者の県内就職を促進する取組みを行っている。		●	・県内の高校への求人活動を行い、積極的な雇用を行っている。 ・社員寮を設置し、熊本市外など遠方出身者への配慮もしている。				4.4					8.5 8.6												17	
	50	【農林水産業の担い手確保】 ・子どもに対する農林水産業教育を行うなど、地域における農林水産業従事者の確保に取り組んでいる。		●			2		4.3 4.4 4.5					8.6		10.2		12	13	14	15					17	